

【特集】②

# 岐阜経済大学の教育改革 —一人として豊かに成長する4年間のために—

- ⑥ 輝け！アスリートたち
- ⑧ キャリア支援課だより
- ⑩ 教育最前線「アクア・トトぎふとの連携」  
「文部科学省学生支援推進プログラムに採択」
- ⑪ 研究室だより
- ⑫ キャンパス彩々
- ⑭ 決算報告
- ⑯ オープンキャンパス実施／  
父母懇談会開催／後期受講登録について





# 岐阜経済大学の**教育改革**



一人として豊かに成長する4年間のために

大学の使命は、人を育てること。

岐阜という地にあるひとつの地方大学として、

また経済・経営系の長い歴史を持つ大学として、

本学がやろうとしていることは何でしょうか。

岐阜経済大学が掲げる将来のビジョンには、

「研究機関としての大学」や「地域との連携」を

いかに深めていくかという

指針も掲げていますが、

今回は学生の教育や生活面に

焦点をあてて紹介します。



## 教員研究

教員個人研究の推進  
共同研究体制・運営の強化  
各種研究助成制度の活用

## 地域連携

産業界・企業・行政等との  
連携推進  
ぎふ清流国体への協力  
生涯学習への対応  
地域課題への取り組み  
地域における教育力の向上





市民との協働で地域の未来を創造する大学

～地域を活かす**知と若い力を伸ばす**キャンパスを目指して

# 岐阜経済大学はより進化します!

## 岐阜経済大学 大学宣言

「地域に有為な人材を輩出する」という本学の使命を果たすため、  
私たち全教職員の決意表明として「大学宣言」を掲げます。

1. 時代の変化に対応できる、「能動的に学ぶ主体」を育成します。
2. 経済・経営を重点領域としつつ、実践的・体験的な学びを推進します。
3. 学生支援で、高い達成感や満足度を提供します。
4. 創造的な研究の果実を大学の知的財産として蓄積します。
5. 日本一の「地域連携大学」として、地域における知の交流拠点となります。

## 学生教育

### 初年次教育の拡充

- ★基礎演習の到達目標達成
- ★フレッシュマンエクスカージョン実施
- ★検定科目プログラム

### ゼミ教育の更なる充実

- ★専門教育の充実
- ★学内ゼミナール大会 ★卒業研究発表会

### 学生の主体的・能動的な学びの強化

- ★インターンシップ
- ★フィールドワーク
- ★ボランティアセンター設立
- ★教育の質の保証



## 学生生活支援

### 学習・生活相談体制の強化

### 課外活動の参加率アップ

- ★課外活動における指導体制

### 学生生活支援

- ★学費減免制度 ★各種奨学金制度

### 快適・健康的なキャンパスづくり

- ★自然と文化の薫るキャンパス整備
- ★環境保全への取り組み
- ★学生生活の  
トータルサービス向上



## キャリア支援

### キャリア支援の強化

- ★上場企業等への就職率アップ
- ★経済経営系資格の取得強化
- ★起業家教育
- ★教職支援の強化



# 4年間を通じて自立性を促す教育で 調和ある人格を育む

# START! 入学

## 1年次

### 全員が受講する基礎演習・演習 担当教員は言うなれば担任の先生

本学では1年次には一般的な広いテーマでの研究授業である基礎ゼミ(基礎演習)があり、2年次からそれぞれの興味に応じた専門的テーマで研究を深めてゆきます。情報収集・調査・検証の方法やプレゼンテーションの技術的な指導まで繰り返し指導をします。これらを自主的に行う力を身に付け、社会人の基礎力を養ってゆきます。指導する担当教員は親となり担任となりサポートします。

### 1年次から検定科目を勉強。 2つは必須です

本学では、1年次から「パソコン検定」「現代経済検定」「漢字検定」など、初年次検定科目を設定し、特に力を入れて指導し、その方法も改善を重ねてゆきます。

### 入学直後から実践的に学ぶ フレッシュマン・エクスカージョン

春、全新入学生を対象に、学部や学科ごとに、学修内容に関係の深い場所を訪れる体験型の見学会を行います。今年、経済学部は長浜市のまちおこし事業を、経営学部の情報メディア学科はソフトピアジャパンのIT企業ビジネスを、スポーツ経営学科は、岐阜メモリアルセンターでサッカーJ2のFC岐阜観戦者アンケートを実施しました。このような取り組みは学びのきっかけに有効と考え、今後も多様なプログラムを行います。



### 初年次教育の 拡充

大学に入って、とまどうことの多い新入生。大学では自分で決めて実行する、自分の責任は自分でとるという大人の扱いをされます。粘り強く課題に取り組み、最後まで成し遂げることのできる若者を育成するために、大学生活にも慣れつつ、2年次以降の専門教育導入にも繋がる重要な初年次教育を拡充します。



## 3年次

### 体育授業サポーター・ 課外体育サポーターで プチ教員体験

地域の小学校、中学校の体育の先生の授業をサポートしたり、部活動の指導をお手伝いしたり。あこがれの教師という仕事に触れ、教えることの難しさを実感しつつも生徒たちの成長を身近に感じ、モチベーションが自然と上がります。



### インターンシップでは 現場で厳しくご指導いただく

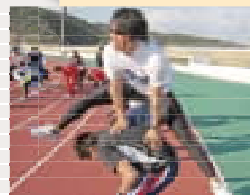
岐阜県インターンシップ推進協議会に会員校として加盟しているため、受入企業については、協議会登録企業を中心に依頼しています。受け入れ側は、企業183社・行政20自治体・協会員1協会の計204機関があります。学生時代から働くことの厳しさと、社会人の姿勢に触れる機会をつくります。

### 教職を目指す人は教育実習は必須

本学では、複数の教員免許状がとれるとあって、教職課程をとる学生は多くなっています。そこで、教職課程支援室を設置、スタッフを常駐して、教職試験や教育実習のサポートを行ったり、同じ目標の学生同士のよい交流の場になっています。独自の試験対策講座や面接対策講座のほか、体育授業、課外体育の体育インターンシップ制度を導入するなど今後も充実させてゆきます。

### 地域スポーツマネジャーを 育成する独自のプログラムが あります

経営学部スポーツ経営学科では、21世紀のスポーツ・教育・健康関連事業の発展に寄与する人材育成のため、「地域スポーツマネジャー」育成プログラムを開発し、共通テキストも完成させ、2009年度より実行に移しています。



### 大学という新たな環境で 生活するすべての学生に 温かく見守る支援体制があります。

普段の授業や国家試験対策などの学習支援・生活相談体制を強化するために、ゼミ担当教員、各事務局など学内スタッフが連携して統合的な学生相談体制を構築。また大学という新たな環境において自分の行動に責任を持って生活することに慣れないうちは、心身の不調や対人関係など様々なことについて悩みを抱える学生がいます。本学では従来から専門員による学生相談室窓口を設置していますが、その開設時間延長や、多様な学生への進路相談体制を強化する方向です。

### 全国的にも珍しい取り組み学内ゼミナール大会

本学のゼミ教育の集大成として、毎年学内ゼミナール大会を行っています。年々、参加ゼミ数は増加していて、ゼミの報告内容の質的レベルは相当高く、総じて発表内容は充実しています。学内ゼミナール大会表彰者は学生表彰の対象になり、たいへん名誉なこと。ゼミによっては、深夜まで研究室で報告を練り上げているところもあります。学生の主体的・能動的な学習の成果が現れています。これからもより充実した大会をめざします。







# 岐阜経済大学の教育改革

一人として豊かに成長する4年間のために



## 視野を広げ、国際感覚を身に着けるために 海外の生活に触れよう

本学では、学生に積極的に海外の文化に触れて刺激を受け学ぶことを推奨しています。1年間または半年間の海外交換留学制度は、中国の上海财经大学、江西師範大学やアメリカのハワイ大学マノア校で可能。また夏季・春季休暇中の1ヶ月間で行う海外語学研修は、アメリカ、ドイツ、中国、フランスにて実施。

10日間で海外文化を体験する異文化体験旅行はアメリカ、ヨーロッパ、アジアの3方面です。大学が旅費の半額相当を補助したり、正規の授業科目として単位認定したりして、かなりお得な実習授業です。

今後も国際的視野を持つよう勧めます。

県内外外国人留学生による日本語



## 将来を見据えて各種資格講座を受講

現在簿記や販売士、FP、保育士、ビジネス能力検定、ニュース検定、など15講座を開講しています。

経済学系大学としては、特に簿記とファイナンシャル・プランナー講座をおススメ！ 年次ごとに計画的に資格取得を考える学生が多くなってきており、専門学校と同等の内容が安価で学べるとあって、学生だけでなく、地域の社会人の方にも好評です。

今後も様々な資格取得をますます奨励してゆきます。



## フィールドワークは自分の目で！ 足で！学ぶ独自のスタイル

講義科目の「地域フィールドワーク」の他、異文化体験旅行（「海外フィールドワーク」）、フレッシュマン・エクスカージョン、あるいは基礎演習・演習単位での現地調査旅行を中心とするフィールドワークが実施されています。また、今後も地域の機関との連携事業によるフィールドワークも進めて行く考えです。



## 2年次

## 自立した若い力の育成 現場に強い若い力の育成

「おとなしく、マニュアルがないと動かない」若者でなく、自主的に動く人材育成のために本学では課題発見・解決型の教育スタイルを多く取り入れたり、机上だけでなく現場でより力を発揮できるよう、地域との協働教育の実践によりフィールドワークを重視したカリキュラムやフィールドワーク技能の研修を強化します。



## 大学生生活の集大成 卒業研究発表会

経済学部では、卒業論文発表会を実施しています。本学では2年次からゼミでそれぞれの興味に応じた専門的テーマで研究を深める指導をしていますが、4年次にはそれらの自分で進めてきた研究をまとめる卒業論文を書きます。経済学部では全学生に卒業論文発表会への参加・発表を義務付けていて、発表会はゼミ単位で行います。

発表会の様子はマスコミに取り上げられるなど盛り上がっています。ゼミ教育の更なる充実に向けて今後も取り組む姿勢です。



## 上場企業への就職が 毎年増加

本学では正課授業として「キャリア形成」講義を入学時から導入。自己分析や新聞の読み方、業界や企業の研究、筆記試験対策のSPI講座なども行い、各学年ごとの自己分析や目標設定をすることで、学生生活の中で、将来にむけての意識を高めています。

毎年、上場企業への就職が増えており、今後も一層力を入れてゆきます。



## 4年次

## 企業や自治体との 強いリレーションシップ

現行カリキュラムにおいて、企業人育成課程の「地域企業研究」「地域企業研究演習」「地域企業研究インターンシップ」や、「ボランティアA・B」「地域フィールドワーク」「インターンシップA・B・C」「NPOコミュニティ論」「特別講義B」(寄附講座)などの科目で協働教育が行われています。また、岐阜県との連携により、「岐阜県コミュニティ診断士」の資格を取得することができ、地域活性化に役立つ人材を育成しています。地域のニーズはますます増えるでしょう。

# GOAL! 卒業

そして社会へ



## 野球教室を開催

本学グラウンド 2009.6/14

6月14日、本学に池田中学校野球部を招いて野球教室を開催しました。池田中学校野球部への野球教室は昨年の11月に続いて今回で2回目です。

前回の教室で既に名前と顔を覚えていたため今回は簡単な挨拶の後すぐにウォーミングアップに入りました。応用クラスと基本クラスに分かれて練習開始。応用クラスでは本学学生と一緒にシートノック。打球を待つ姿勢から、捕り方・投げ方を本学学生を見本に練習しました。基本クラスは、キャッチボールでの正しい投球フォームを練習し、守備の基本練習を行いました。休憩を挟みバッティング練習も行いました。前回の教室の時に教えたことが出来るようになっていた中学生の成長を目の当たりにし、学生らは随分刺激を受けていました。お互い負けないように日々の練習を一生懸命行うこと、またの再会を約束して教室終了となりました。

# 輝け！アスリートたち



硬式野球部  
BASE BALL

## アジア大学野球トーナメント2009IN台湾大会に本学より2選手が選抜される!!



▲大坪 慎也さん  
スポーツ経営学科3年  
(杜若高校出身)



▼亀田 裕平さん  
スポーツ経営学科3年  
(甲西高校出身)

11月28日～12月8日に台湾で開催される「アジア大学野球トーナメント2009 IN 台湾」に本学硬式野球部より亀田 裕平投手と大坪 慎也内野手が選抜されました。本大会は台北大学スポーツ連盟からの招待要請を受け東海地区大学野球連盟創設35周年ならびに岐阜・静岡・三重3県リーグ発足10周年の記念事業として参加するものです。

亀田投手は本学のエースで、140km前後の角度あるストレートが一番の魅力です。大坪内野手は今春のリーグ戦にてベストナイン賞(三塁手部門)を受賞した広角な打撃が魅力の選手です。書類審査、実技セレクションの結果選出されました。

今秋は本学硬式野球部の「ジャパン選手」にご注目ください。

尚、本大会には全日本大学野球連盟評議員の塚田 勝本学硬式野球部総監督も随行します。

## 2009年度 春季 岐阜学生野球リーグ戦をふりかえって

2009年度春季岐阜学生野球リーグ戦 戦績

5勝8敗 勝点1 (5位)

●ベストナイン

三塁手 大坪 慎也さん  
(再掲)

指名打者 儀間 裕也さん ▶  
スポーツ経営学科1年  
(沖縄水産高校出身)



今春は有望な新戦力が多く加入しチーム構成が大きく変化したシーズンでした。投手陣では、松岡選手(4年 近江)・亀田選手(3年 甲西)の両軸に加え小藁選手(1年 甲西)の二人が加わり先発の柱として力を発揮しました。その中で特筆すべきは松岡選手です。10試合(13試合中)に登板し最上級生ただ一人の投手として大車輪の活躍でした。野手陣では大型捕手の田原選手(1年 大垣日大)・儀間選手(1年 沖縄水産)らがレギュラー出場を果たしました。上級生では大坪選手(3年 杜若)が三塁手部門でベストナインを受賞しました。

シーズンの展開としては、上位大学に1勝2敗のパターンで1勝はするものの、勝点が奪えない戦いが続きました。新戦力も開幕当初は華々しいデビューでしたが、後半は体力的な不安を覗かせました。秋季シーズンでは、これらの新戦力と上級生の力がうまく噛み合い、勝点を取り寄せることを期待します。





陸上競技部  
TRACK AND FIELD

# 第62回西日本学生陸上競技 対校選手権大会で活躍!

- 100m 10秒66 6位  
小山 真輝  
(スポーツ経営学科4年 龍谷富山高校出身)
- 200m 21秒34 3位  
小山 真輝(再掲)
- 200m 21秒59 5位  
吉村 純平  
(スポーツ経営学科4年 宇治山田商業高校出身)
- 400m 48秒26 6位  
大川 光  
(スポーツ経営学科4年 栄徳高校出身)
- 800m 1分53秒16 優勝  
久我 アレキサンデル  
(スポーツ経営学科2年 淡路三原高校出身)
- 400mH 52秒16 5位  
大川 光(再掲)
- 4×100mリレー 40秒50 4位  
前出 卓也  
(スポーツ経営学科4年 四日市工業高校出身)
- 小山 真輝(再掲)  
岡部 知久  
(経済学科1年 兵庫工業高校出身)
- 吉村 純平(再掲)
- 4×400mリレー 3分15秒45 6位  
中田 大介  
(スポーツ経営学科2年 龍谷富山高校出身)
- 大川 光(再掲)  
小熊 翔一(経済学科2年 栄徳高校出身)
- 久我 アレキサンデル(再掲)
- 男子トラックの部 第4位

陸上競技部創部以来、最高の成績を収めることができ、男子トラックの部では立命館大学、中京大学、福岡大学といった強豪大学に次ぎ、西日本での存在感を示すことができました。秋の全日本インカレに向けて、弾みを付けることができました。今後の活躍に注目ください。



▲800m優勝の久我君(中央)



サッカー部  
SOCCER

# 日本サッカー協会サッカー C級コーチ修了証授与!

**速報!**  
本学サッカー部  
天皇杯岐阜県代表決定戦  
出場決定!

私がサッカーを始めたのは小学校2年の時。サッカーは技術的に上手くなる喜びや、チームとして皆と一緒に同じ目標に向かっていくところに一体感があったりも魅力があるスポーツだと思います。私がサッカーコーチの資格に興味をもったのは、この岐阜経済大学の1年生だった頃、本学と地域のひとでできたNPO法人ステイックルバック・スポーツクラブで子ども達にサッカーの指導をする活動をしたことがきっかけでした。この資格は指定の授業科目受講のほか、協会の筆記試験と実技試験があります。私が特に実技試験に向けて行っていたのは、普段、サッカーの指導者がどんなふうに行っているか、説明するのか、どんなふうに進手のモチベーションをあげる声かけをするのかなどに注目して研究したこと。今後は休みの日などに地域の子どもの指導をするなどしてサッカーに関わってみたいと思います。



## 「子どもたちにアドバイスできる喜び」

スポーツ経営学科4年 三上 嵩大さん  
(出雲工業高校出身)

私がサッカーを始めたのは小学校2年の時。サッカーは技術的に上手くなる喜びや、チームとして皆と一緒に同じ目標に向かっていくところに一体感があったりも魅力があるスポーツだと思います。私がサッカーコーチの資格に興味をもったのは、この岐阜経済大学の1年生だった頃、本学と地域のひとでできたNPO法人ステイックルバック・スポーツクラブで子ども達にサッカーの指導をする活動をしたことがきっかけでした。この資格は指定の授業科目受講のほか、協会の筆記試験と実技試験があります。私が特に実技試験に向けて行っていたのは、普段、サッカーの指導者がどんなふうに行っているか、説明するのか、どんなふうに進手のモチベーションをあげる声かけをするのかなどに注目して研究したこと。今後は休みの日などに地域の子どもの指導をするなどしてサッカーに関わってみたいと思います。

本学スポーツ経営学科の学生は、「トレーニング演習」「コーチング演習」(ともにサッカーC級コーチ資格取得授業)を受け、所定の試験に合格することにより、日本サッカー協会から同資格の認定を受けることができます。その修了証授与式を7月22日、本学3号館スチューデントプラザ三二ホールにて行いました。今回の対象者は15名で、そのほとんどがサッカー部に所属しています。サッカーC級コーチは、地域においてスポーツ活動を実施している指導者および、これから指導者になるという者を対象に、12歳以下の選手・子どもたちに関わるグラスルーツで活動する指導者の育成を目指したカリキュラム構成となっています。発育発達、技術、戦術理論、コーチング法、プランニングなどに関する13時間の講義と、ボールフィーリング、ゴールを奪う、シュートなどの実技22時間に及び内容です。サッカー部以外の学生も取得しています。

# 女子バレーボール部東海リーグ2部昇格!

主将 今井華子さん スポーツ経営学科3年(近江高校出身)



女子バレーボール部  
WOMEN'S VOLLEY BALL

私たち女子バレーボール部は創部5年目。1年生から4年生まで合わせて12人。大学生活にバイト、部活との両立でなかなか練習にメンバが揃わない中、春季東海リーグでは3部優勝2部昇格、県リーグでは2部優勝1部昇格を収めることができました。部員のバレーに対する目的のズレがあったり一時はどうなることかと思いましたが東海リーグ2部という目標に辿りつくことができました。なかなかみんなの気持ちを一にするというのはとても難しいことですが、また秋の東海リーグを目標に日々の練習を積み重ねていきたいと思えます。今年もまた部員を増やし、女子バレー部を盛り上げていきたいです。これからも日々たくさんの人に感謝し、チーム一丸となって笑顔で元気にバレーをしていきたいと思えます。ご声援をお願いいたします。





藤野 未佳さん 株式会社大垣共立銀行 内定

経営学部スポーツ経営学科4年  
県立岐阜商業高校出身

就職活動において大切なことは、見通しを持って具体的に活動することです。私は、入学当初から銀行への就職を視野に入れていたのですが、インターンシップの授業で大垣共立銀行を訪問しました。実際に働く行員の方の姿を自分の目で確かめ、話を直接聞き、「ここへ就職したい」と意欲が高まりました。今振り返ると、インターンシップの参加が重要な鍵になっていたと思います。

就職活動中は、不安や迷い、焦る気持ちも正直ありました。しかし、「企業に対する強い思い、そして自分を信じてありのままの姿で臨むことを忘れずよう」と自身に言い聞かせてきました。また、今までの自分を見つめなおし、自分の強みをしっかり理解しておくことが大切です。それをどのように企業の人にアピールするか。聞き手を引き込む、好感の持てる話し方もマスターしたいですね。

今後、より多くの資格取得に向けて頑張っていきたいと考えています。お客様に「また藤野さんと会って話したい」「藤野さんに相談しよう」と思っていただけ行員になることが、私の目標です。

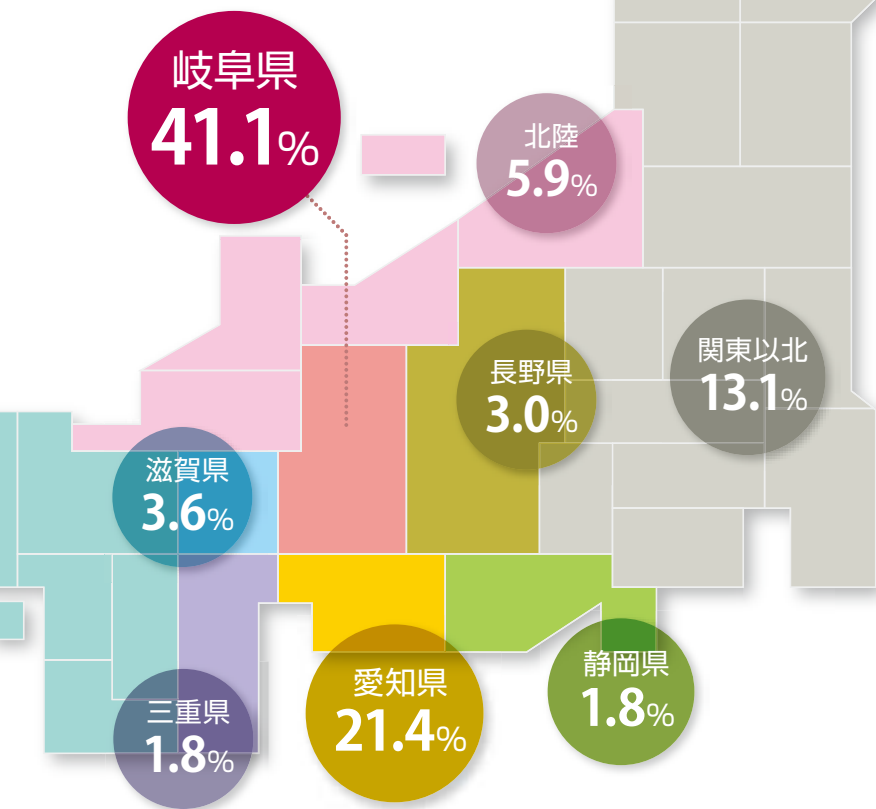
## あなたはリターン派？ インターン派？ 岐阜経済大学の就職事情

岐阜経済大学を卒業した後、この西濃地域に留まって就職する人、出身地に戻って就職する人など希望はさまざまです。就職先が内定している学生の就職活動の様子も紹介しながら、本学の就職事情を見てみましょう。



### 地域別就職状況

この図は学生の就職先として登録された「地域」を集計したものです。岐阜県内の就職が圧倒的に多く、次いで愛知県が多い結果となりました。これは実は本学の志願率の高い地域と同様です。もともと志願段階で、卒業後の就職地も考慮して、地元であるいは自宅から通える範囲に進学するという傾向が強いという点、さらに本学はこの地元企業と協力して経済・経営を地域で活かすための学びを進めている点が評価された結果になったと考えられます。また、関東地区には企業の本社が集中しており、就職先の登録集計の結果割合が高くなっています。なおこの図は2008年度の就職先データを参考に作成しています。



柴田 和也さん 静銀リース 内定

経営学部スポーツ経営学科4年  
常葉学園橘高校出身

私は静岡県出身で、卒業後は地元に戻って就職したいと考えておりました。特に金融関係の仕事を考えており、静銀リースという静岡銀行関連の会社の内定をいただき、とても嬉しく思っています。

私の就活を思い返してみると、一番大変だったのは、「移動」です。特に、内定を頂いた静銀リースさんの試験を受けていた6月が、肉体的、精神的、金銭的にもとても辛かったです。

静銀リースさんの試験のときは、前日に静岡に帰り、面接が終わったらすぐに大垣に帰ってくるようにしていました。それは、1社内定を頂いていて他の会社は受けていなかったからです。また、私はサッカー部に所属しており部活の練習もありましたし、他にバイトもあったからです。おかげで10日間ほど、大垣-静岡間を4往復しました。新幹線だとお金がかかるので鈍行電車で移動しました。片道約3時間半、約4000円。合計約28時間、総額約3万2000円。ちなみに、その間部活でも静岡に行ったので、合計5往復しました。

これからは卒業論文を頑張ると共に少しずつリースの勉強を行い、来年度からは地元静岡に社会人として貢献していきたいと思っています。



## インターンシップを実施します。

毎年8月のこの時期、2年次と3年次生は、インターンシップ生として各企業にて就業体験をします。今年のインターンシップは左記の企業にお世話になります。

### 2009年度 インターンシップ受入予定企業

#### 〔企業名〕

- 金 融
  - 豊川信用金庫
  - 株式会社十六銀行
  - 株式会社大垣共立銀行
  - 株式会社岐阜銀行
  - 高山信用金庫
  - トヨタカーローラ愛豊株式会社
- 車販売
  - トヨタカーローラ愛豊株式会社
- 観光
  - 名鉄観光サービス株式会社
  - ホテルグリーンプラザ白馬
  - 株式会社フォーラムホテル
- ホテル
  - 株式会社ルネサンス
- サービス
  - 株式会社平安閣
- 冠婚葬祭
  - 東海サーモ株式会社
  - ヒコタ株式会社
- アパレル
  - 株式会社ワイズ
- 外食
  - 東近江市役所
- 行政
  - 大垣市役所
- スポーツ
  - 株式会社フットボールクラブ
  - 水戸ホーリーホック
  - 株式会社コパン
  - 岐阜県スポーツイベント振興事業団
  - NPO法人アミティエ
- 出版
  - 株式会社文溪堂
- 医療・健康
  - 株式会社パーフェクト・トレーナーズ
- 医療・健康
  - 株式会社パーフェクト・トレーナーズ
- 広告印刷
  - ヨツハシ株式会社
- 広告
  - フジヤ広告株式会社
  - ヨツハシ株式会社



田中 宏伸さん

郵便局株式会社 内定

経営学部経営情報学科 (現 情報メディア学科)4年  
四日市工業高校出身

私が就職活動で苦労したのは自己分析です。就職活動を始めるまで自分について考える機会が無かった為、長所や短所、どういった職種に就きたいかという事すらわかりませんでした。こういった事から就職活動を始めた当初は、面接官に対して「自己PR」や「志望動機」を思うように伝える事が出来ず苦労しました。

また、工夫したのは就職支援会社を利用した事です。2月に就職活動がうまくいかず、行き詰っていたときに知人から紹介してもらいました。エントリーシートの書き方から面接の対策まで、それまで自分が行ってきた事の悪い部分を明確に教えて戴いた事で、それ以降の就職活動は自信を持って臨むことが出来ました。

正直、今回内定を頂いた企業が自分に向いているか就職活動を終えた今でもわかりません。しかし、この企業に働きたいという思いを汲みとって戴き、数多くいる就活生の中から私を選んで戴いた企業に感謝し、精一杯貢献してゆこうと考えております。

## 内定学生の声

その他  
1.8%

京都以西  
6.5%



今井 祐樹さん 中部電力株式会社 内定

経営学部経営情報学科(現 情報メディア学科)4年  
加茂高校出身

私にとって、就職活動は自分自身のことを見つめなおすものでした。一月に、中部電力の方とお会いした時、色々なアドバイスをいただきました。その中で特に、私が人と話すことが苦手と言う事についてのアドバイスがとても印象的でした。具体的には、普段からの話し方を少しだけ変えるというものです。私は部活動でポートに取り組んでおり、それが自分の一番の“売り”であるため、スポーツマンらしくはきはきと元氣よく話すことを普段から取り組むように言われました。就職活動を行ったことで、普段からそう言った心構えをしていく事が自分を変えていくことの第一歩だと知りました。

また、エントリーシートの添削をキャリア支援課の方にお願いに行った際に言われた事は、これからもずっと忘れないと思います。企業が私に求めるものは、「スポーツマンとしての自分」そう言われたとき、私は自分らしく取り組めばいいのだと、自信を持つことができました。

就職活動において、企業のことを知る事ももちろん大切だと思います。しかし、私はそれ以上に自分を知る事が成功への第一歩だと考えます。



豊田 正宣さん 西濃運輸株式会社 内定

経済学部経済学科4年  
関西高校出身

私が西濃運輸さんを受けようと思ったきっかけは、岐阜経済大学に入学後、この会社のアルバイトをしたことでした。私は岡山県出身ですが、西濃運輸さんは全国的に知名度が高い会社で岡にも支店があり、もちろん知っていました。就職活動にあたり自己分析をしてゆく中で、自分は人と話すことが苦手だと感じていましたが、明るく大きな声をだして自分から話すことを心掛けた結果、思わず話しが弾んだり親しくなれて、「人見知り」は勝手な思い込みだったかもしれないと思えたことは大変大きな収穫でした。また私は運動部に所属しており、部活動との両立もたいへんでしたが、だからこそ充実した毎日が送れたようにも思います。今後は残りの学生生活を(勉強もしつつ)満喫したいと思います。



上田 毅さん JR九州 内定

経営学部スポーツ経営学科4年  
熊本西高校出身

私の就職活動は少し遅かったのですが、2月から始めました。最初は合同説明会に参加し、その中で自分が興味を持った会社の説明会に参加していきました。

私の出身は九州の熊本です。卒業したら就職は地元に戻ってしたいと考えていましたので、私が初めて受けた企業は地元の警備会社でした。その会社で面接があったのですが、全く答えることができませんでした。この時に就職活動の大変さを知りました。それからは面接の練習を真剣に取り組みました。しかし、最初は何を言っているかわからず本当に大変でしたが、練習を重ねていくうちに少しずつできるようになりました。面接は面接官に自らの考えを伝えるものなので、簡潔にわかりやすく伝えることが大事です。必ず聞かれる志望動機、入社してやりたいこと、自己PRを簡潔に分かりやすく伝えるために、言おうと思っていることを簡潔書きにしました。また、聞かれたことに対して正直に答えることを心掛けました。そしてJR九州の面接に臨みました。その結果、無事に内定をもらうことができました。

今後は、社会人になるために様々な経験をして知識を身につけていきたいです。そして、残りの学生生活をしっかりと楽しみたいと思います。



岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふと  
岐阜経済大学の連携協定調印式



## 岐阜県世界淡水魚園水族館 「アクア・トトぎふ」と 連携協定を結びました

2009年7月8日(水) 岐阜経済大学において、岐阜県世界淡水魚園「アクア・トトぎふ」と岐阜経済大学は、環境教育を通じた地域社会への貢献などをめざし、連携して協力することに合意し、連携協定を締結しました。

岐阜経済大学の主に経済学部経済学科の生活と環境コースの授業科目で、岐阜県世界淡水魚園「アクア・トトぎふ」を訪れ、体験学習の場の提供を受けられます(会議室の借用、体験学習プログラムへの依頼なども可能)。

岐阜経済大学の高校生向け講座等において、大学での環境・生物に関する座学と岐阜県世界淡水魚園「アクア・トトぎふ」での体験学習を組み合わせる環境教育を実施します。

生物学などを担当する本学教員が岐阜県世界淡水魚園「アクア・トトぎふ」の必要に応じ、相談に応じたり、助言を行います。

希望する本学学生は、一定の指導を受け、岐阜県世界淡水魚園「アクア・トトぎふ」のボランティアガイドとして水族館を詳しく学ぶことができます。

## 文部科学省の学生支援推進プログラムに 採択されました

文部科学省公募の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに、本学の「就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実」が採択されました。

本学は、従来よりキャリア教育を体系化し高い就職率を達成してきましたが、今回のプログラムでは、学生とOBにキャリア教育に参画してもらうことにより、一層の就職率の向上と質の面の充実を目指します。

### 具体的例

- 〔1〕1年次からの様々なキャリア教育の場面や説明会で、内定獲得者やOBを講師に招き、体験談・就職活動へのアドバイスを聞く機会を作る
- 〔2〕昨年度から活動を始めている就職活動サークルの活動を中心に、内定を得た先輩が後輩を指導
- 〔3〕就職活動特別講座の補助員として学生メンターが参加し、後輩の指導にあたるなどの取り組みを行います。

## 情報メディア学科に新科目を開講します 「ナレーション実習」と「広告論」

### ●ナレーション実習



吉村 功 講師  
フリーアナウンサー・  
元東海テレビ放送所属

音響映像作品のナレーションやレポーター役を務めるために必要な技術の修得と、話し方のコツを学びます。フリーアナウンサーである吉村功講師は、以前所属していた東海テレビ放送でプロ野球ニュースやプロボクシング、名古屋国際女子マラソンなどの実況を担当。現在は岐阜放送局のラジオ「吉村功のスポーツ・オブ・ドリーム」、2007年から夏の高校野球・岐阜県大会の実況などをされています。

### ●広告論



牧野敬一 講師  
中京テレビ放送  
岐阜支局長

近年メディア環境は大きく変貌しつつあり、たとえばテレビは2003年からデジタル放送に向けて新たな展開をはじめました。この科目では、テレビのメディアパワーや視聴率についてなど、テレビを取り巻く状況や、広告主・広告会社との関係を理解し、テレビ広告を使っての企画力・プロモーション力を育てるものです。講師の牧野敬一氏は、風雲たけし城などの番組や、JRNのシンテレエクスプレス、キリンメッツなどのCMも手掛けられました。





## 「ホームレス」という社会的問題に まっ向から取り組む！

経済学部准教授

# 山田 壮志郎 先生

### 派遣村の衝撃が 私たちに与えたもの

今年の年末年始、東京・日比谷公園に誕生した「年越し派遣村」は、新年の日本に大きな衝撃を与えました。派遣村に集まった人の多くは、昨年の秋以降の世界同時不況のあおりを受けて「派遣切り」に遭い、それまで住んでいた社員寮を追い出され、職と同時に住居を失った人々です。私が研究テーマとしているのは、1990年代以降に増加した野宿生活者（ホームレス）への支援のあり方ですが、「職と同時に住居も失う」という構造は、「派遣村」もホームレス問題も共通しています。

国は、1990年代後半から各種のホームレス対策を進めてきました。そこで重視されてきたのは、資格取得や職業紹介といったホームレスの就労を促進するための取り組みです。しかし、いくら優れた就労支援策を用意したとしても、履歴書に書く住所のない人は、なかなか採用されま

せん。また、食うや食わずの生活では、不利な条件下での就職活動を持続することは困難です。そのため私は、就労支援と同時に、住居や所得を保障することがホームレス対策には不可欠だと考えています。とくに住居は、人間生活の基盤であり、私たちは住居・住所を拠点に社会とのつながりを保っています。現代の日本では、住居の確保は市場を通じた個人の努力に任されていますが、本来は個人責任でなく社会的に保障されるべきものと思います。

住居を失った人には、まず住む場所を保障し、最低限の所得も保障する。そして安定した収入を得るための就労に結びつくよう就労支援策も講じる。一つのアプローチに偏らず、こうした諸施策を複線的に整備することが今日のホームレス対策には求められているように思います。派遣村の衝撃は、これまでのホームレス対策―住居を失った人たちへの支援策の根本的な見直しを要請しているといえます。



## PROFILE

1976年11月に北海道札幌市に生まれる。その後、同旭川市に引越し、18歳まで過ごす。高校卒業後、日本福祉大学に進学し社会福祉を専攻する。名古屋市内でホームレス生活をしてきた男性が生活保護の適用を求めて提訴した「林訴訟」をテーマに卒業論文を書いたことをきっかけに、大学院進学後は、ホームレス問題に対する福祉的支援のあり方をテーマに研究活動に取り組む。また、大学院修士課程に進学した1999年より、名古屋市内のホームレス支援団体「笹島診療所」に所属し、生活相談や施設訪問、区役所への同行申請といった支援活動に携わる。2004年に日本福祉大学大学院博士課程を単位取得満期退学。同年より岐阜経済大学経済学部専任講師。2008年より同准教授。専門は公的扶助論。今年3月、日本福祉大学より博士(社会福祉学)の学位を授与された。

### 趣味拝見

趣味がないため「休日は何をしているんですか？」と聞かれると、いつも答えに窮しています。そもそも完全な休日というのあまりなく、何かしら予定が詰まっています。その一つが、学生時代から続けているホームレス支援活動です。もちろん学生時代に比べれば参加できる時間は減っており、現在主に携わっているのは、5年前に立ち上げたアパート生活に移行した人たちの支援活動です。せっかく野宿からアパートに移っても、地域の中で孤立してしまい、時にはアパートからいなくなってしまう人もいます。そこで、アパート生活者を集めて、食事会をしたり、映画会をしたり、ナゴヤドームに野球観戦に行ったりして、交流の場をつくっています。写真は、食事会のひとコマです。この日はそうめんとかぼちゃのあんかけを作りました。四苦八苦しながら包丁を握っていますが、ひとり暮らしの人が多いため、みんなで食べる食事は美味しいようです。



### 杉原教授が日本情報考古学会 堅田賞を受賞！

本学の杉原健一経営学部教授が、情報考古学の分野で優れた研究成果を取めたことにより、その功績がたたえられ、「日本情報考古学会堅田賞」を受賞されました。

杉原教授は、2007年度の財団法人ソフトピアジャパンの共同研究に選定され、株式会社イビソク様と「3次元モデルを用いた考古学研究、遺跡復元、まちづくり支援システム」の研究を進めてきました。

2007年秋には、その研究成果を、日本情報考古学会第24回大会にて、「自動生成システムによる古代の建物の復元―美濃国分寺を復元する3次元モデルの自動生成―」と題し、発表しました。

今回の表彰は、その研究成果の功績が評価されたことによるもので、5月30日(土)に開催されました日本情報考古学会学会賞授与式において授与されました。



## 2009年度ユニークプラン決定！

今年度のユニークプランについて、1個人と2団体の企画を採用することを決定しました。

ユニークプランとは本学の研究調査助成制度の名称で、独創的な研究・調査・その他の活動を企画する学生を支援するため、助成金を給付するものです。本学の学生であれば、個人・団体に関わらず応募できます。団体の場合、本学学生以外の参加は認められません。

	個人及び代表者氏名	テーマ
個人	有坂 めぐみ 経済学科 4年(大月短大より編入)	フェアトレードの現状と普及に関する調査研究
団体代表	西野 靖浩 経済学科 1年(加茂高校出身)	農村の活性化に関する共同研究
団体代表	平松 昌也 臨床福祉コミュニティ学科2年 (木曽川高校出身)	国際ボランティアの一步～恵まれない子どもたちを救おう

**助成金額** 個人企画 10万円以内  
団体企画 25万円以内

**助成枠** 10件以内

※交付の認定を受けた個人・団体には、「中間報告書」・「計画完了報告書」・「決算書」の提出、報告会での報告が義務づけられます。

1年間の研究・調査結果については、「ユニーク・プラン報告書」として冊子にまとめます。

## コミュニティ・サービス・ラーニング講演会を実施！

去る7月8日(水)岐阜経済大学講堂にて、講師に昭和女子大学教授 興梠寛先生をお迎えし、「コミュニティ・サービス・ラーニング」と題してご講演いただきました。

当日は、本学臨床福祉コミュニティ学科学生の参加や、社会福祉協議会の方など福祉分野に携わる方も多数出席していただきました。

コミュニティ・サービス・ラーニングとは、学生が理論として学んだことを地域社会の中で実現化するための教科のひとつで、教科学習と社会貢献を融合させた互酬的な体験学習です。ボランティアが持つ学習機能を共有し、小学校、中学校、高校のボランティア活動、地域でのボランティア活動のつながりを強める機会にしたいと考えています。また、岐阜経済大学では、ボランティア・ラーニングセンター(ボランティアセンター)を設置する予定です。

講演は、有名なピーターラビットを例にして、作者がボランティアと深く関わり、売れた本の収入を寄付していたことや、

ボランティアとは何か、ひとりだけではできないが、小さなグループ(コミュニティ)単位で行える活動の広がりなど多種多様なことを、教えていただきました。

講演後は、興梠先生と交流会を開催し、熱心な意見交換がかわされました。



# キャンパス 彩々 Campus Saisai

## 鎌田實名誉院長の 諏訪中央病院見学会を実施します



鎌田 實 名誉院長

2009年9月10日(木)本学の学生が、地域医療の現場を見学し、現場で働く人々を通じて問題点や課題をみだし、私たちが暮らしやすい地域社会について検証するため諏訪中央病院を訪問します。

当日は本学客員教授で諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生に病院及び施設内をご案内いただきます。学生のみなさんはあらかじめ下記の観点で質問項目を準備して臨み、質疑応答を交えながらフィールドワークを行います。

### ① 当院回復期リハビリテーション病棟における脳卒中地域連携パス導入の取り組みについて

回復期リハビリテーション患者への在宅支援を進める際における医療・福祉の連携について学ぶ。

### ② スムーズな退院支援にむけての地域資源との連携や協働について

在宅サービスへのスムーズな移行に向けての方法について学ぶ。

### ③ 医療介護相談室の現状とソーシャルワーカー・介護福祉士の役割について

介護相談の内容からソーシャルワーカーや介護福祉士の役割について学ぶ。

### ④ 緩和ケア病棟での患者、家族への支援について

生活を支援する視点や尊厳を考えた場合、どのようなチームケアを行っているか学ぶ。

### 諏訪中央病院とは？.....

「あたたかな急性期病院」をスローガンに「やさしく、あたたかい、たしかな医療をめざす」を基本理念に掲げ医療活動を展開する長野県茅野市にある総合病院です。茅野市、諏訪市、原村の3自治体が構成する「諏訪中央病院組合」が運営しています。



# こんにちは! 高校生の皆さん

## 大垣養老高校の皆さん

6月23日に、大垣養老高等学校の1年生の生徒さんが本学に来られ、模擬授業を受けました。これは大垣養老高校の総合学科には系列(ビジネス・会計・情報・生活福祉・大地の恵み)があり、2年生からそれぞれの系列に分かれるため、進路選択の参考となるようにと実施したものです。本学の4名の教員がそれぞれの専門から授業を行い、約130名の生徒さんは熱心に受講されました。また学内の施設(情報実習室、介護実習室、図書館、グラウンド、体育館、講堂ロビー(日本国際ポスター美術館の展示閲覧)等)を見学したり、大垣養老高校から本学に進み現在4年次在学の吉田洋平さん(経営情報学科 現情報メディア学科)の大学生活についての話を聞きました。



## 揖斐高校の皆さん

本学マイスター倶楽部が揖斐高生の夏の揖斐高ショップに向けての学習や準備の支援を行う連携講座を6月11日と25日の2回にわたって揖斐高校にて実施しました。マイスター倶楽部と揖斐高生との連携講座は今年で2回目です。

マイスター倶楽部の紹介とともに、揖斐高ショップでの売り方を考える上でヒントとなる普段の買い物行動についてのワークショップや野菜の生育状況の紹介、当日販売する商品についてのPOP広告の作成講座を行いました。

## 大垣商業高校の皆さん

本学は、大垣商業高等学校と教育連携協定を締結しましたが、協定に基づき、連携講座を実施しています。

これは、総合ビジネス科の3年生を対象に、「課題研究」の一つのテーマとして設定された「起業家教育」の前学期を、本学教員が担当するもので、大垣商業高校にて行っています。

### ●カリキュラム

実施日	講義内容	担当者
4/27	経済社会の変化と起業教育 日本経済及び産業構造の変化 開業率の低下と廃業率の上昇	野松 敏雄 教授
5/11	起業精神あふれる人々の生き方を知ろう	堀 富士夫 講師
5/18	日本型経営システムの変化 雇用関係の変化	竹内 治彦 教授
6/1	新しい商品・サービスの開発と起業家精神	黒川 博 教授
6/8	アイデア・テーマの見つけ方	中村 共一 教授
6/15	事業計画の作成I	高木 勢生 講師
6/22	事業計画の作成II	
6/29	資金計画の立て方	佐藤 豊和 講師
7/6	起業に必要な資格・届出・許認可	
9/7	経理・会計の基礎	小倉 幸雄 教授
	人材の確保	竹内 治彦 教授
10/5	電子商取引について	井戸 伸彦 准教授

## 50歳からの大学院体験授業を開催しました

岐阜経済大学大学院経営学研究科では、2007年に「50歳からの大学院体験授業」を実施し今回で3回目の開催となりました。この催しは、本学が大学院を設置し、昼夜開講で授業を行っていることを地域の皆様方に知っていただくことを目的としています。



大学院生の研究分野の志向に応えるため「企業経営」「都市・地域政策」「会計・税務」および「経営情報」の4つのコースを設定し、企業経営の中核を担う人材育成に努めています。今回は1週間を通して次の14科目の授業を公開し、そのうち8科目を聴講いただきました。

### 時間割

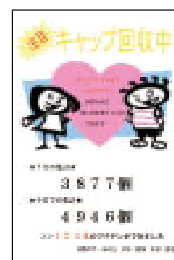
日時	科目(担当者)
7/13(月)	経営学特論(岩坂和幸准教授) 会計情報研究(安田晶彦准教授)
7/14(火)	税法特論I(佐藤豊和講師) コンピュータグラフィックス研究I(杉原健一教授)
7/15(水)	コーポレートガバナンス研究(中村共一教授) 環境ビジネス戦略研究(森誠一教授) モデル分析特論(猪平進教授)
7/16(木)	ベンチャービジネス研究(渡邊明客員教授) 金融システム研究(佐藤俊幸教授) 生活マネジメント研究(斎藤悦子教授) 知能システム研究(新家茂教授)
7/17(金)	生涯スポーツ政策研究(高橋正紀教授) 会計学特論I(小倉幸雄教授) 生産情報システム研究I(松島桂樹客員教授) 【場所】ソフトピア共同研究室

50代から80代までの幅広い年代の方に参加いただきました。

大学院体験授業を受講された方の中には、大学院生、科目等履修生として入学された方がいました。

## ペットボトルキャップをワクチンに！キャンペーン実施中！

本学HIGE☆BUの部員による「国際ボランティア一歩」の会主催で、現在本学キャンパス内にて、ペットボトルキャップの収集キャンペーンが実施されています。キャンパス内分別ごみ箱置場に設置されたポリバケツに、ペットボトルのキャップだけを入れてもらい、集めた400個がポリオワクチン1本分に相当するというもので、身近なところから国際ボランティアに寄与しようという試み。ポリバケツの設置と、キャンペーンチラシを作成し、6月から開始したところ、6月では1,069個(ポリオワクチン2.7本分)、7月では、3,877個(ポリオワクチン9.7本分)が集まりました。引き続き行いますので、皆さんご協力をお願いします。



### 〔設備関係支出〕

マルチメディア授業対応教室AV機器更新、課外活動用マイクロバスの購入が主な支出で4,050万円となりました。

### 〔資産運用支出〕

有価証券の買い替え及び運用替え等により増加しました。これは、資産運用の有効活用を図るものです。

以上の結果、平成20年度収支に占める、創立40周年記念事業関係費は、収入の部では、法人等からの寄付金額が1億3,167万円、大垣市補助金額が1億5,000万円の計2億8,167万円となり、帰属収入の13%を占めています。一方、支出の部では、施設・設備の整備(正・課外活動の支援事業)を行い、ソフト・ハードの事業費総額が4億7,569万円となりました。教育研究経費、管理経費、施設・設備関係経費の39%を占めています。

したがって、次年度への繰越支払資金は25億5,042万円となり、収入の部の「前年度繰越支払資金」より7,485万円減少しています。

### 資金収支計算書 平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

科 目	平成20年度	平成19年度	前年度比
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	1,233,174	1,326,998	△ 93,824
手数料収入	24,765	22,315	2,450
寄付金収入	148,103	242,111	△ 94,008
補助金収入	356,796	314,961	41,835
資産運用収入	261,374	234,556	26,818
資産売却収入	596,750	800,050	△ 203,300
事業収入	26,464	32,318	△ 5,854
雑収入	61,956	142,394	△ 80,438
前受金収入	272,887	239,241	33,646
その他の収入	2,239,867	1,666,427	573,440
資金収入調整勘定	△ 464,047	△ 490,531	26,484
当年度収入の部小計	4,758,440	4,530,843	227,597
前年度繰越支払資金	2,625,273	3,345,300	△ 720,027
収入の部合計	7,383,365	7,876,143	△ 492,778
<b>支出の部</b>			
人件費支出	1,159,868	1,309,581	△ 149,713
教育研究経費支出	532,745	585,817	△ 53,072
管理経費支出	188,570	220,720	△ 32,150
施設関係支出	432,762	426,190	6,572
設備関係支出	40,509	179,574	△ 139,065
資産運用支出	2,444,899	2,515,200	△ 70,301
その他の支出	65,989	49,287	16,702
資金支出調整勘定	△ 32,399	△ 35,501	3,102
当年度支出の部小計	4,833,293	5,250,870	△ 417,577
次年度繰越支払資金	2,550,420	2,625,273	△ 74,853
支出の部合計	7,383,365	7,876,143	△ 492,778

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。(単位 千円)

### (3)貸借対照表

「貸借対照表」は年度末3月31日における資産、負債及び基本金等の状況を表したものです。資産の部の合計は、153億9,505万円となり、前年度末に比べて14億8,774万円減(8.8%減)、負債の部の合計は、10億1,685万円となり、前年度末に比べて226万円増(0.2%増)、基本金の部は、116億9,386万円となり、前年度末に比べて145万円の微増となりました。この結果、資産の総額から負債の総額を差し引いた「正味財産」は143億7,820万円となり、前年度比14億9,001万円(9.4%減)の減少となりました。

なお、今期は有価証券の強制評価減を行ったことから、簿価計上から時価計上に変更しております。

### (2)消費収支計算書

「消費収支計算書」は資金の移動を伴わないもの(現金の出入りの他に消費していくもの)として、減価償却額や退職給与引当金繰入額などを計上し、当該会計年度の消費収入及び消費支出の均衡状態を表したものです。学校法人の経営状況を示すもので企業会計の「損益計算書」に当たるものです。

消費収支では、帰属収入合計額から基本金組入額と消費支出合計額を差し引いた当年度消費収支差額は14億9,146万円の支出超過となりました。今期は、昨年の世界金融危機の影響により仕組債で運用している有価証券の時価が著しく下落したことから、強制評価減(実損ではない)を行ったことによるものです。なお、有価証券等評価減前の支出超過額は4,337万円です。

また、前年度からの繰越消費収入超過額から当年度消費支出超過額を差し引いた翌年度繰越消費収入超過額は評価減前では41億3,242万円、評価減後は26億8,433万円となりました。

### 消費収支計算書 平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

科 目	平成20年度	平成19年度	前年度比
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	1,233,174	1,326,998	△ 93,824
手数料	24,765	22,315	2,450
寄付金	149,390	243,490	△ 94,100
補助金	356,796	314,961	41,835
資産運用収入	261,374	234,556	26,818
資産売却差額	1,225	50	1,175
事業収入	26,464	32,318	△ 5,854
雑収入	61,956	142,394	△ 80,438
帰属収入合計	2,115,148	2,317,085	△ 201,937
基本金組入額合計	△ 1,451	△ 402,367	400,916
消費収入の部合計	2,113,697	1,914,718	198,979
<b>消費支出の部</b>			
人件費	1,141,509	1,277,945	△ 136,436
教育研究経費	778,169	811,042	△ 32,873
(内減価償却額)	245,398	225,000	20,398
管理経費	214,098	262,666	△ 48,568
(内減価償却額)	25,489	41,727	△ 16,238
資産処分差額	1,471,385	12,894	1,458,491
消費支出の部合計	3,605,162	2,364,548	1,240,614
当年度消費支出超過額	1,491,465	449,830	△ 1,041,635
前年度繰越消費収入超過額	4,175,802	4,625,632	△ 449,830
翌年度繰越消費収入超過額	2,684,336	4,175,802	△ 1,491,466

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。(単位 千円)

### 貸借対照表 平成21年3月31日

科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>資産の部</b>			
固定資産	12,619,639	14,079,865	△ 1,460,226
有形固定資産	6,737,696	6,551,107	186,589
その他の固定資産	5,881,942	7,528,757	△ 1,646,815
流動資産	2,775,417	2,802,939	△ 27,522
資産の部合計	15,395,056	16,882,804	△ 1,487,748
<b>負債の部</b>			
固定負債	691,152	709,512	△ 18,360
流動負債	325,703	305,077	20,626
負債の部合計	1,016,855	1,014,589	2,266
<b>基本金の部</b>			
第1号基本金	11,491,863	11,200,412	291,451
第2号基本金	0	290,000	△ 290,000
第4号基本金	202,000	202,000	0
基本金の部合計	11,693,863	11,692,412	1,451
<b>消費収支差額の部</b>			
翌年度繰越消費収入超過額	2,684,336	4,175,802	△ 1,491,465
消費収支差額の部合計	2,684,336	4,175,802	△ 1,491,465
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	15,395,056	16,882,804	△ 1,487,748

※上記の表の金額は千円未満を切り捨てている為、合計など金額が一致しない場合があります。(単位 千円)



# 平成20年度決算報告

## ●事業の概要

本学は、平成19年に創立40周年を迎え、大垣市、地元財界を始め、在学生父母、卒業生の皆様から多大なご支援をいただき、教育研究条件の一層の充実を図るため、昨年に続き第2期記念事業を実施いたしました。

平成20年度における事業の概要は以下の通りです。

### (1) 創立40周年記念事業(第2期)

「むすんで、ひらいたー地域を力に、未来を究めるー」をメインテーマとし第2期記念事業を行いました。

#### ①ハードウェア事業

- ・校舎の改修整備(経済学部研究室移設改修、学内無線LAN設置)
- ・体育施設の整備(野球場再整備、ボート部合宿所建設)

#### ②ソフトウェア事業

- ・50周年ビジョンの策定
- ・ボート部合宿所完成記念式典

### (2) 教育活動・学生支援

- ・教育の国際化事業(交換留学、海外語学研修、国際交流研修事業)
- ・奨学金事業(経済支援、資格取得・スポーツ優秀者等)
- ・学生の質向上事業(ゼミナール大会、検定の必修化)
- ・教職課程支援室の充実
- ・強化、準強化指定クラブ助成事業(硬式野球部・陸上競技部・ボート部・サッカー部・男子バレーボール部への活動助成費)
- ・キャリア形成、就職支援事業(資格取得13講座・インターンシッププログラム等の実施)

### (3) 研究・産官学連携活動

- ・受託、共同研究事業(受託事業9件、共同研究事業1件)
- ・講師派遣、公開講座事業(小中高等学校への出前講座、公開講演会の実施)
- ・連携、共催講座事業(西濃地区5高校と高大連携、大学間連携、協定自治体との連携事業の実施)

### (4) キャンパス整備事業

- ・マイクロバスの購入
- ・課外活動設備の充実
- ・学生の福利厚生設備の整備



## ●財務の概要

学校法人岐阜経済大学の平成20年度決算については、去る5月25日の理事会並びに評議員会において承認されました。決算書類は「資金収支計算書」、「消費収支計算書」及び「貸借対照表」からなっており、以下にその概要をご説明いたします。

### (1) 資金収支計算書

「資金収支計算書」は当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対応するすべての資金(現金の出入り)の動きを表したものです。

#### ①収入の部

##### 〔学生生徒等納付金収入〕

授業料、入学金、実習料、施設設備資金等の収入です。授業料納付学生数は1,337名、前年度比9,382万円の減少となりました。

##### 〔寄付金収入〕

創立40周年記念事業の特別寄付金1億3,167万円、一般寄付金639万円、親和会からのスクールバス運行費助成金704万円、財団法人からの外国人留学生奨学金300万円を受け入れました。

##### 〔補助金収入〕

国庫補助金、地方公共団体補助金の収入です。国庫補助金2億614万円、大垣市から創立40周年記念事業として1億5,000万円、その他、大垣市中心市街地協働型まちづくり事業補助金等64万円を受け入れました。

##### 〔資産運用収入〕

定期預金等の受取利息収入です。前年度比2,681万円の増加となりました。有価証券運用益の増加が主なものです。

#### ②支出の部

##### 〔人件費支出〕

専任教職員等の給与及び退職者への退職金支出等です。退職者数前年度比6名の減少により、1億4,971万円減少しています。

##### 〔教育研究経費支出〕

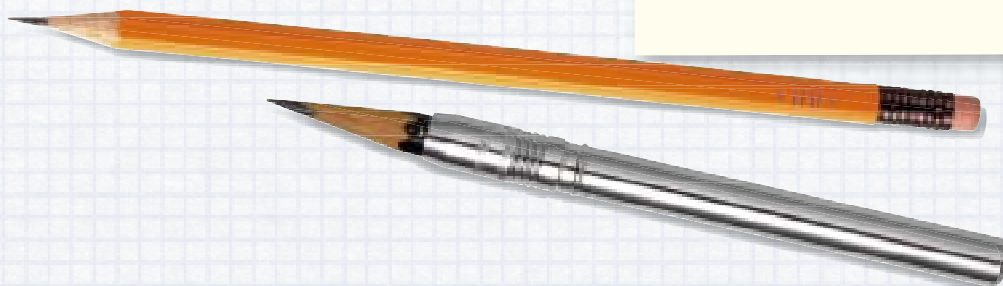
臨床福祉コミュニティ学科開設記念講演会、学生への奨学事業(学費減免、資格取得者への奨学金等)、語学留学助成事業、課外活動助成事業などが主な支出で5億3,274万円となりました。

##### 〔管理経費支出〕

広告費等の学生募集経費及び事務職員研修制度の拡充等管理業務に要する経費が主な支出で1億8,857万円となりました。

##### 〔施設関係支出〕

創立40周年記念事業(ボート部合宿所建設工事、野球場整備工事、8号館経済学部研究棟移設工事、学内無線LAN整備工事)が主な支出で4億3,276万円となりました。



# オープンキャンパス

2009年度



本校の鎌田實客員教授(諏訪中央病院名誉院長)を迎え、福祉のオープンキャンパスを開催しました。当日は高校生97名を含む120名を超える参加がありました。前半は鎌田先生が地域医療の現場で経験した人との関わりの中から、福祉の必要性、福祉の学び、福祉にかける熱い思いを語りました。後半は福祉を学ぶ福祉高校と大垣桜高校の生徒2名、本校の在学生4名、福祉現場で働く本校の卒業生2名をパネラーとした、意見交換会を行いました。今回のオープンキャンパスは、真剣に人と向き合うことの大切さを認識する機会となりました。

## 7/20 「人間力、福祉の心」をテーマに。

## 8/2 夏のオープンキャンパス開催!

当日は雨にもかかわらず348名の参加者がありました。オープンセレモニーとして、吹奏楽部の演奏で始まり、在学生トークショー、学部学科・入試制度説明、ゼミ体験、ランチ体験、保護者対象説明会、個別相談会と盛りだくさんのメニューを実施しました。終了後にとったアンケートでは、「在学生トークショーでの、ありのままの学生生活の語りが新鮮だった」「自分の将来をイメージできる内容だった」などと好評で、さらにゼミ体験では、13講座の中から自分の興味関心に応じて自由に選択でき、高校の授業とは違った雰囲気でも面白かったと満足度の高いものとなりました。

★オープンキャンパスは今後も実施予定。気軽に参加ください。

日程 8/22(土)、9/12(土)、10/3(土)、11/21(土)、11/22(日)、12/23(水・祝)

## 岐阜経済大学親和会総会・父母懇談会を開催しました。

本学会場

去る6月20日(土)午前10時より、106名のご父母の皆様の出席を得て、2009年度親和会総会を開催致しました。遠藤親和会長、谷江幸雄学長、説田泰朗副理事長の挨拶の後、遠藤親和会長の議事進行のもと各議案が諮られ、審議の結果、全ての議案が承認されました。

総会終了後、父母懇談会の第一部へと移り、145名のご父母の皆様に参加を得て、本学経営学部講師の神谷拓氏より「自己決定の教育学」をテーマとした講演が行われました。

その後、2つのグループに分かれ、日頃、学生が授業や休み時間に利用することの多いスタジオ実習室や体育館、図書館などを希望されるご父母の方々が見学されました。

昼食は、食堂にて無料のキャンパスランチを体験していただき、皆様からご好評を得ました。第二部では全体懇談会が行われ、

地方会場

教学関係・就職関係の各部門別に大学側からの説明があり、熱心に聞き入るご父母の皆様が姿に日頃からの関心の高さがうかがえました。

その後、就職活動報告としてスポーツ経営学科4年次生の柴田和也さん、学生生活報告として経営情報学科3年次生の松原千里さん、教職課程受講報告としてスポーツ経営学科3年次生の今井華子さんの3名から各種報告がありました。

全体懇談後、希望者のみ個別懇談へと移り、単位取得状況や出席状況をはじめ就職活動や日常生活に関するご質問など、各部署の担当職員がご父母の方々の懇談を行いました。



今年度は、沖縄県那覇市「ホテルJALシティ那覇」及び長野県松本市「ホテルブエナビスタ」の2会場において開催され、計57名の方に参加いただきました。同じ地域で同じ大学に通うご息ご子女をお持ちのご父母同士、情報交換を行うなど和やかな雰囲気の中で会を進めることができました。今後も本会を大学とご父母の皆様、ご父母の皆様同士のコミュニケーションの場として積極的に活用していただきたいと思います。来年度も是非、多数の参加をお待ちしております。

## 後期受講登録期間は

9月25日(金)～9月29日(火)まで

今年度の後期受講登録期間は、連休の影響で、金曜日から翌週の火曜日までの平日が正味3日しかない日程です。資料をよく読んで、期間内に確実に登録を済ませてください。

【受講科目選択】 授業内容・科目の受講順序などについて「シラバス」(大学HP 在学生の方へ)学習支援

のシラバス参照)を熟読し、系統的な履修に努めてください。

【予備登録科目】 定員に達した順に受付を終了しますが、空きがある科目は、受講登録最終日まで受け付けます。

【受講登録確認表】 受講登録期間終了後、確認表を配布(3・4年次は

郵送)します。所定の期間内に申し出がなければそのまま確定となりますので、資料に基づいて慎重に確認してください。放置すると、卒業が遅れるおそれがあります。

【新科目の開講】 情報メディア学科では、マスコミ関係者が担当する「ナレーション実習」(元東海TVアナウンサー担当)「広告論」(中京TV岐阜支局長担当)が開講されます。奮って受講してください。